

3月2日 プログラム

James M. Stephenson J.ステファンソン

Fanfare for an Angel for two Trumpets and Organ

天使のためのファンファーレ

Johan Sebastian Bach J.S.バッハ

Cantata BWV78 Aria "Jesu, Der Du Meine Seele" from Cantata BWV 78

カンタータ78番より第2曲「我らは急ぎます」

C. Camille Saint-Saëns C.C.サン＝サーンス

Fantaisie no 1 en mi bémol majeur (梅干野ソロ)

幻想曲 変ホ長調

Johann Sebastian Bach J.S.バッハ

Nun Komm, Der Heiden Heiland BWV659 (川田ソロ)

コラール 『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』

Gaetano Donizetti G.ドニゼッティ

Sonata per Posthorn e Organo (霧生ソロ)

ポストホルンとオルガンの為のソナタ

Jean-Francois Michel J-F.ミッシェル

Rolipops for two Trumpets and Organ

ロリポップス

休憩

Kevin Mckee K.マッキー

Lux et Lapis for Two Trumpets and Organ

光と石

Johan Sebastian Bach J.S.バッハ

Pièce d'orgue BWV572(梅干野ソロ)

幻想曲ト長調

Modest Mussorgsky M.ムソルグスキー(霧生貴之編曲)

Pictures from an Exhibition

組曲『展覧会の絵』より抜粋

Promenade1 - Il Vecchio castello - Promenade3 - Tuileries - Bydlo - Ballett der unausgeschlüpften Küken -

"Samuel" Goldenberg und Schmuyle - Promenade4 - Catacombæ - La grande porte de Kiev

プロムナード - 古城 - プロムナード3 - テュイルリーの庭 - ビドロ - 卵の殻をつけた雛の踊り - サムエル・ゴールドン

ベルクとシュムイレ - プロムナード4 - カタコンベ - キエフの大門

Le Due Trombe

2nd Concert

トランペット 霧生貴之 Takayuki Kiryu

トランペット 川田修一 Shuichi Kawata

オルガン 梅干野安未 Ami Hoyano

2018年3月2日(金)

[会場] 霊南坂教会

[主催] Le Due Trombe

プログラムノート 霧生貴之

天使のためのファンファーレ

2015年に開催されたCancer Blowsにてライアン・アンソニー、クリス・マルティン、マイケル・ザックス、デイヴィッド・ビルガーの豪華メンバーによって演奏され一躍有名になった。作曲者自身によって書かれた金管5重奏やトランペット4重奏など様々なバージョンがあるが、本日のトランペット2本とオルガンはLe Due Trombeのスペシャルバージョン。

カンタータ78番より第2曲「我らは急ぎます」

バッハのライプチヒ2年目書かれたコラール・カンタータの代表的な作品。モーリス・アンドレと28歳の若さで不慮の死を遂げた息子のライオネル・アンドレが共演した録音はモーリス・アンドレファンなら一度は耳にした事のある名盤。幻想曲 変ホ長調

サン・サーンスとオルガンと言えば交響曲3番『オルガン付き』が有名だが、他にもオルガン作品を沢山残している。日本の音楽大学でトランペットを学んだものならコンクールの課題曲でお馴染みのアンリ・ビュッセルによって編曲された幻想曲 変ホ長調のオリジナルである。

コラール 『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』

バッハはこのルターの待降節用コラールを用いながらカンタータ61番、62番、そして同名のオルガン作品としてBWV599 659 660 661の6曲を書いた。その中でも659はピアノ編曲などで極めて有名な曲である。トランペットとオルガンの編曲と言えば川田の師であるラインホルト・フリードリッヒにより昨年発売されたCDに収録されている。

ポストホルンとオルガンの為のソナタ

ランメルモールのルチア、愛の妙薬など70作品ほどのオペラを作曲したドニゼッティは北イタリアのロンバルディア州にあるベルガモ出身。原曲はオーボエとピアノのためのソナタであるが、ポストホルンとパイプオルガンの響きはロンバルディア平原に広がる田園風景を更に彷彿させる。

ロリポップス

J-F.ミシェルはスイス人トランペット奏者、作曲家でトランペットの作品のみならず数多くの管楽器作品を手がけている。このロリポップスは2本のホルネットと金管バンドに書かれてたのだが、吹奏楽版、ピアノ版は2本のトランペットに改変されている。冒頭の掛け合いのファンファーレから哀愁帯びた旋律、そしてフラメンコを彷彿させる情熱的なフィナーレを迎える。

光と石

カルフォルニア出身のトランペット奏者、作曲家のK.マッキー、この『光と石』を作曲するにあたりワシントン国立大聖堂と無原罪の御宿りの聖母教会からインスピレーションを受けたと語っており、その曲想は教会のステンドグラスから差し込む光と石造りの大聖堂の壮大な空間そのものを表していると言えるだろう。

幻想曲ト長調

バッハの青年期以前の作品と言われており、三つの部分からなるのだが、特筆すべきはテンポ表記がそれぞれトレ・ヴィトマン（非常に早く）- グラヴマン（荘重に）- ラントマン（緩やかに）とフランス語で表記されている所であろう。なぜフランス語で書かれたのかは現在も解明されていない。

展覧会の絵

ムソルスキーがかねてから交友を結んでいた建築家、画家ハルトマンの急死により遺作展が開催され、その半年後に『展覧会の絵』は完成させられる。生前に演奏される事はなく、リムスキー・コルサコフによって出版された改訂版は革命的で斬新とも評価された原典版は当時には理解されなかった為のものであろうと思われる。今回は原典版にスポットを当て、最もなじみあるラヴェル版とは違ったLe Due Trombe版を楽しんでいただきたい。